

「農泊」を通じて 地方振興考える

東北大でシンポ

農山漁村に滞在し、地元
の生活や住民との交流を楽
しむ「農泊」から地方振興
を考えるシンポジウムが5
月31日、東北大川内南キャ
ンパス（仙台市青葉区）で
あった。同大法学部と公共
政策大学院が主催し、学生
や市民ら約300人が参加
した。

シンポでは、農泊を推進
する農林水産省都市農村交
流課の宮本博文課長補佐と
仙北市農山村体験デザイン

室の田口聡美室長補佐が農
泊の現状を紹介した。

宮本氏は「訪日外国人観
光客が増え、リピーターが
地方に足を運んでいる。地
元の収益につながるため、
国は体験型観光の充実化を

支援している」と話した。

田口氏は仙北市が海外の
団体を受け入れた様子に触
れ、「来訪者は目の前にあ
る山や畑にも関心を示す。
意外なものが観光資源にな
る」と語った。

参加者からは、高齢化で
農泊の受け入れ先が先細る
恐れについて質問があり、
田口氏は「新たな発想を与
えてくれる若い後継者を育
てる必要がある」と答え
た。



農泊の現状などが報告されたシンポジウム